

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400103		
法人名	医療法人福西会		
事業所名	グループホームふれあい		
所在地	福岡県福岡市早良区早良1丁目5-51		
自己評価作成日	平成26年3月6日	評価結果確定日	平成26年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=40
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

法人全体で教育体制を整えている為、研修や人材育成については充実している。さらには法人で多様な専門職を配置しており、特に食事においては、栄養士の栄養管理のもと献立を作成し、バランスのとれたおいしい食事を提供している。家族会では、仕出しを取ったり、お寿司屋さんなどに目の前で料理してもらうなど食事をメインにしている。今後は、さらに家族との交流を図るとともに地域住民との交流も力を入れていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームふれあい」は西新から佐賀方面に南に下る国道沿い、室見川を越えた辺りの福西会南病院の敷地内にある。病院と隣接し、敷地も広いことで周囲の散歩も安全に行え、室見川沿いの河川敷など緑と自然にも囲まれた立地である。野芥にある福西会病院が母体で、医療とも連携しながら一体的な支援を行っており、早良区において長く地域医療を支え、同敷地内にはケアセンターも隣接されている。グループ間でも連携がとられ、近くの系列老健への慰問と一緒に参加したり、病院に医療相談に行ったりする他、グループ全体での研修への取組みも多岐にわたっている。夏祭りは地域の方も招いて、ケアセンターとも合同で行い、ここの年で交流も増えてきた。入居者の家族とも協力して運営に取り組んでおり、開設時から家族会を発足して、年2回一緒に食事会も行っている。今後も医療と福祉において地域貢献が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	従来の経営理念に基づき、ホーム独自の理念を作成し、掲載しておりミーティングにて共有し実践につなげている。	法人の理念と、開設時に職員で話し合っ作られたグループホーム独自理念があり、申し送り時に唱和している。毎年理念の見直しに話し合いも行っており、理念にもある「能力を活かす」ために、プランやサービスにもつなげている。	理念をより親しみやすく、共有できるように、短く分けて読みやすくしてはどうだろうか。また、具体的な実践に向けて、行動指針や目標の作成など検討されることにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、ふれあいサロンや校区運動会に参加している。	町内の「よりあい所」を使った地域交流や、公民館の催し物に参加をしており、校区の運動会には法人全体で入居者も一緒に参加している。夏祭りも法人と合同で行い、地域や家族にも案内している。	事業所として地域を招く取組や、法人とも共同した認知症に関しての情報発信や啓発活動を検討されてはどうだろうか。また、町内会活動への参加や、食事会、ボランティア活動などをしていくことで、日常的な交流が進んでいくことにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福西会としては講師の派遣等おこなっているが、当事業所では実践的な講師の派遣などは行っていない。今後は地域包括ケアシステムに貢献するために何をすべきかを知り、地域に活かせるように努力していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回(第4金曜日)に運営推進会議を実施。活動・行事・苦情相談などを報告している。地域との関わりについて、民生委員に相談している。	地域包括、町内会、民生委員、老人会長のほか利用者、家族も参加して会議が開かれ、取組や状況報告のほか、地域情報を頂くこともある。会議での地域交流の相談から、ふれあいサロンの参加にもつながった。議事録は今後玄関先での掲示を検討中である。	会議参加の幅を広げるために、市や家族全員への案内をしてはどうだろうか。また予定を調整することで2ヶ月毎の開催を目指していくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管轄の包括支援センターの職員が運営推進会議の構成委員となり、日ごろから連携を図っている	早良区の事業所連絡会「よかとこネット」が2ヶ月に1回開かれ、会への参加時に区の担当者にも質問などを行うことができる。相談事などは電話でも行い、何かあった時の連絡もし易い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止については、新採用時研修及び事業所内研修に参加し、理解を深めている	玄関は暗号施錠され、外からは入れるが、中からは出られず、徘徊癖のある方には見守りや必要であれば付き添って外出対応している。1,2階は自由に行き来できるが、ホールのドアも施錠している。身体拘束の事例はなく、毎年研修を行い、職員同士でも声掛けなど注意しあっている。	離設リスクに備えて、玄関やホールの施錠がされているが、運営推進会議や家族会での検討を行って、代替案の話し合いがなされることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法については、新採用時研修及び事業所内研修で理解を深め、事業所内において、早期発見・防止に努めている		

H25自己・外部評価表(GHふれあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業を利用されている方はいないが、いつでも説明できるように研修など学ぶ機会を設けている。また、制度に関するパンフレットを用意し家族が閲覧できるようにしている	権利擁護に関しての外部研修に参加し、内部での伝達も行っている。制度を利用したケースはなかったが、必要な際には外部の期間との相談によって対応を行う。職員も一般的な理解をしており、パンフレットも常備されていた。	法人グループ内での事例を扱った情報共有や、法人内で協力した研修の開催などを検討されてはどうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約についての基準を設け、入居時に利用者・ご家族に十分に説明を行い、理解をいただいている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者や家族が参加し、外部者へ向けて意見を表せる場を設けている。意見・要望があった場合には、話し合いを行い運営に反映させている。また、意見箱の設置をしている	年に2回家族会を開催しており、家族同士のコミュニケーションにもつながっており、協力的に運営され、8割方参加されている。食事会も兼ねてざくばらんに意見を伺い、あがった要望などは職員同士で話し合っ対応の説明も行っている。遠方の方には電話やメールでの報告も行い、今後は手紙による個別報告も計画である。	家族会も開かれ、意見などもよく出されているが、集まり時に家族アンケートなども扱うことで、より多くの意見を引き出す取組をしてはどうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別にスタッフから意見を聞き、業務改善などに反映させている。また、年2回キャリアアップに対する意向確認を行っている。今後は職員の満足度調査を検討している。	管理者との個別面談や、必要な時に開くスタッフミーティングなどで意見をあげたり、プランに関する情報教諭などを行っている。管理者が現場にも入っていることで、個別に意見や要望も吸い上げており、職責を問わず、普段から意見も言いやすい環境を作っている。	個別の面談や随時の話し合いによって、意見を出し合っているが、定期的なカンファレンスやミーティングなどで、全体が一同に介する機会をもって、より事業運営に活かされていくことが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回人事考課、年2回賞与考課、必要に応じて面談を行い、働きやすい職場環境作りに努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	20代から60台男性問わず、個々の能力や特技を生かし役割分担を行っている。	各職員が備品や行事など担当の係をもって業務にあたり、事業所からのスキルアップの働きかけとして、年に2回キャリアアップ意向シートを提出してもらっている。職員もお互いに協力してシフト調整など柔軟に対応して、休憩時間や場所の確保もされている。研修案内は管理者から支持して参加しており、伝達も行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権や職業倫理について、新採用時に研修を行い、利用者の人権尊重に努めており、職員・ご家族など観覧できるように用意している	年に1回、人権についての内部研修が法人で開催され、参加者から、事業所での伝達や資料回覧なども行っている。	全体的な人権教育や景初のために、外部団体の資料活用や、外部研修の参加などが検討されることにも期待したい。

H25自己・外部評価表(GHふれあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員への指導は、5年以上の経験者が行い、キャリアアップに努めている。また、職員のキャリアに応じて社内・外研修に参加する機会を設けている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のよかとこネットに参加し、他事業所との交流を図っており、サービス向上に向けて情報交換を行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者2名で伺い、本人やご家族との会話の中から不安や要望に耳を傾けている。その思いを介護計画に反映させ、安心した生活を送ってもらえるように支援している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時・入居時など、十分に面談を行い、家族が相談しやすい環境作りに配慮し、小さなことでも話していただけるような関係作りに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、アセスメントを行い、課題や本人の心身に関するニーズを見極め支援している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事・できない事を見極め、ゴミだし・食器洗い・洗濯物たたみなど自分のできることは見守り、寄り添いながら共に実行し、生活の場であることを意識している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護計画作成時には意見を聞き、プランに反映させながら家族と共に本人を支える姿勢を持っている。今後は月1回、日々の生活をご家族に報告できるよう取り組みたい		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人などの面会時には、再訪していただけるように努めている	本人、家族と面談して関係を把握している。事業所に着やすい雰囲気を作って昔からの知人などの来訪もあり、遠方への外出や一時帰宅、外泊などは家族にも協力してもらっている。ドライブのついでに自宅周辺に立ち寄ったりとそれぞれに合わせた対応もしている。	

H25自己・外部評価表(GHふれあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活・生活スタイルを把握し、個人の状態に合わせた支援を行いつつ、利用者間のなじみの関係作りも大切にしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	敷金返金時に訪問し、その後の話をし、相談事などあれば対応するようにしているが、病院や他施設へ移っているため長く継続できていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や生活を通して本人の希望をアセスメントしている。本人からの聴取が困難な場合はご家族からの情報を参考にその人らしさを大切に本人本位に検討している	初回にアセスメントした内容は個人台帳に記録し、職員間でも「ケアアセスメント」として情報を共有している。初回は管理者が担当し6ヶ月毎の再アセスメントは担当職員が現場の情報を反映させながら取り直している。	法人グループでの情報を共有しながら、アセスメント様式や取り方を統一することで、全体的な情報が把握されていくことにも期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて、本人・家族からこれまでの生活歴などの把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴を参考に現在の生活スタイルを把握し、ケアプランに反映させている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者や利用者。家族でカンファレンスを行い、本人の意向を反映したケアプランを作成している	ケアプランの見直しは変化があった時と6ヶ月の定期的に行っている。短期目標ごとに、日々の実施状況とモニタリングを兼ねて担当職員が記録しており、各ユニットで入居者全体の情報を一つのファイルにまとめることで、職員間での情報共有を図っている。	介護保険更新時期などには家族にも参加してもらった担当者会議を行い、意見を照会してはどうだろうか。また、担当者会議の記録に参加者や意見照会内容の記載などがされることと、プランの長短期の期限を区別してたてられることも望まれる。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケア記録に記入するとともに、カードックスを活用し、職員間で情報共有している。介護計画の見直し時には、ケア記録・担当職員の意見を参考にしている		

H25自己・外部評価表(GHふれあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向・ニーズに応えられるよう栄養士に相談したりしてバランスの良い食事提供を行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者にとっての地域資源を把握するように努めている。ふれあいサロンへ参加するなど地域行事に参加しながら探って行きたい		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を確認し、事前に情報提供を行い、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護とも連携して毎週健康管理を行っている。かかりつけ医は基本的には母体病院が担当が、往診の必要な場合や緊急時対応に備えて、必要があれば外部の病院をかかりつけにすることも増えた。通院は基本的には家族に支援してもらい、必要があれば事業所から介助や同行も行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護を受け意見交換をし、個々に適切な受診や看護を受けられるように支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報の提供、入院中には病院関係者との情報交換を行っている。月2回は病院へ訪問している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合における対応指針・同意書を得ており、状態変化に応じて、家族や職員など関係者で話し合い支援している	今までに看取りの事例はなく、入居者にも対応していない旨の説明をして同意をもらっている。重度化の際には母体病院や系列施設とも連携して対応を行う。緊急時の連絡相談などは提携の訪問看護と協力したり、往診のかかりつけ医と協力して対応している。	将来的な看取りの受入に備えて、今後の定期的な研修や、法人グループ間での情報共有が進められることが望まれる。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回社内研修にて急変時の対応・事故発生時の対応について実施している		

H25自己・外部評価表(GHふれあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。避難場所は、敷地内の病院・老健施設もしくは近隣の小学校と、職員全員に周知している	年2回の訓練の内1回は消防署立会で行い、基本的には夜間想定で訓練している。訓練は単独で行い、避難時の受入に関しては近隣の小学校や病院とも相談している。スプリンクラーなどの防災設備は完備され、備蓄物やAEDは隣接の病院、施設に備え付けられている。	訓練は事業所単独で行われているが、隣接する施設や病院とも協力して行ってはどうか。また、地域との協力体制を築くために、運営推進会議での話し合いなどなされることにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権・尊厳及びプライバシー保護についての社内研修を実施している。日ごろより、利用者の尊厳を損ねないよう管理者を中心に指導を行っている。特に入浴や排泄時のプライバシーについては配慮するようにしている	接遇や個人情報の管理に関しては法人の研修などもあり、伝達も行っている。言葉かけなどについても職員同士で注意したり、個人写真の利用についても口頭で説明して同意を得たものだけに留めている。	個人情報利用に関しての同意を得ているが、掲示物などの写真利用についても書面で同意を得ていくことが望まれる。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人や家族から希望や意向を聞き、日々の関わりの中での声掛けにより可能な限り自己決定できる場面を作っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や意向に応じてサービスを手依拠するように心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	高維持にはなるべく本人に洋服を選んでいただけるように支援している。男性利用者の髭剃りなど好みの身だしなみ支援、希望に応じて理美容の利用も支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的に同じ敷地内にある老健施設での調理になるが、毎週木曜日に昼食をGHで準備することになっている。メニュー決めは利用者の意見を聞くなどして決定。片付けなどできることを共に行っている	週1回の事業所調理時には、出来る人には配下膳などを手伝ってもらっている。食べたいものなども話しの中で伺って、メニューに反映させたり、仕出しで対応することもある。職員は弁当などを同じ食卓で食事している。	日頃は給食によって食事をすることが多いが、検食などで同じものを同じように食べることで、一緒に食事を楽しむ機会を作ってみてはどうだろうか。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立により、バランスの良い食事を提供している。また、本人の状態に応じて食事摂取や水分確保の支援を行っている		

H25自己・外部評価表(GHふれあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施の声掛け・介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ誘導や声掛けを行っている	排泄チェック表を利用し、バイタルと一緒に管理している。日常的に腹部マッサージや水分摂取管理、下肢筋力のリハビリなどを行い、状態改善して自立につながった方も多い。パターンを把握して適切なトイレ誘導によって日中の失禁も減ってパット利用の軽減につながった方もいる。職員同士のコミュニケーションもよくとって、いつもと違う様子を読み取り、迅速な対応を心掛けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養バランスの良い食事の提供や水分補給・適度な運動を行うことで便秘予防に努めている。また、便秘の方については事前に主治医により指示を受け、服薬管理を行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の基本的な入浴日は決めてあるが、本人の希望により順番をかえたり、状態により日にちをずらすなど対応している	浴槽を中心にコの字型の広い洗い場で、介助もし易い。基本的には午前から15時までの入浴で、順番などは入居者ごとに配慮しながら対応する。拒まれた時も声掛けの工夫などで時間を変えたりして、少なくとも週2回は入るようにしてもらう。お湯は溜め流して清潔に保ち、湯温なども個人に合わせている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠の際は温かいお茶を進めるなど支援している。不眠続く方には主治医と相談し、安定剤などの処方・服薬支援を行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の疾病や内服の情報収集を行い、主治医の指示のもと内服管理を行っている。状態変化時は速やかに連絡・相談を行い支持を仰いでいる		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望や意向、できる事を把握し、ゴミ捨て・洗濯など役割作りを行っている。また、季節に応じた催し物を行い、生活の中に楽しみが持てるように支援している		

H25自己・外部評価表(GHふれあい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日ごろの生活の中で近隣への散歩や買い物、花見・ドライブなど行っている	周辺への散歩で、近隣施設でお茶を飲んだり周囲を回ったりは気軽に行っている。外出計画もたてて、毎月1回のドライブも行い、近くの公園への花見は家族も招いて合同行事にしている。気候のいい時期には週2,3回程度は外出機会を持つようになっている。	ドライブなどの機会を増やしていくために、外出手段の検討を法人などとも合わせて検討されていくことが期待される。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に金銭の管理はGHで行っているが、希望された場合は家族と話し、自分で所持している。買い物の際は職員と一緒に支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話など、家族との関わりが持てるように支援してる(毎年本人直筆にて年賀状を作成している)		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・浴室・食堂など共有スペースは、安全で清潔であるように心がけ、清掃・整理している	各階のホールは非常に広く、各所に余裕をもって置かれたダイニングテーブルやソファによって思い思いの場所で休むことが出来る。南向きの窓からの眺めもよく、緑に囲まれ、季節の移り変わりも感じられる。中庭の日当たりもよく、気軽に外気浴などを楽しむことができた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での食事席の配慮や食事席以外にもソファなど席を用意し、広い空間の中で自由に好きな場所に座れるようにしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はなじみのある家具や日用品を活用し居心地よく過ごしてもらえるように工夫している。	各居室には介護ベッド、鏡付きの洗面台、上部に収納棚が備え付けられる。たんすやテレビなどは自由に持ち込め、希望があれば畳敷きに変えることも出来る。部屋ごとに異なった花の絵と名前を表札に使用して、彩りを与えている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやバリアフリーを整備し、本人のできること、わかることに応じて活用できるように支援している		